

21023 社会福祉援助技術演習Ⅰ a、b Seminar in Social Welfare Aid SkillsⅠ		1 年次～ 後期 2 単位	
担当者	藤島 稔弘／富樫 美奈子	履修可能学科	W
		関連資格	教職必・社福士必(W)
サブタイトル	基礎的援助技術の習得		
授業内容 ・ ねらい	<p>【授業目的・ねらい】 ソーシャルワーカーに必要なコミュニケーション技術の体験的学習</p> <p>【授業内容】 ソーシャルワーカーに求められる自己覚知を体験的に学習する。 面接の基礎となるコミュニケーション基礎技術を理解し、実際に面接のロールプレイを体験する。 これらの体験を通じて個別スーパービジョンを体験する。</p> <p>【到達目標】 講義で学んだ社会福祉援助技術の基礎について、体験的に理解するとともに、その後の社会福祉援助技術演習の授業の意味と学習方法を理解する。</p> <p>【履修上の注意】 * 社会福祉概論、心理学、社会福祉援助技術総論（もしくは、精神保健福祉援助技術総論）との同時履修（または、修得済であること）とする。 2 年次以降に人間福祉実習及び社会福祉援助技術現場実習、精神保健福祉援助実習を履修する場合は必修の科目となる。 社会福祉士の国家試験受験資格を希望している場合も必修となる。 * クラス分けは教員が行い、必要に応じて全クラス合同で行う。</p>		
授業計画	<p>1 自己覚知①自己覚知の必要性の理解と体験</p> <p>2 自己覚知②視覚教材を利用した事故の価値観の言語化</p> <p>3 自己覚知③言語化した価値観の開示（グループ学習）</p> <p>4 自己覚知④言語化・開示した自己の価値観と社会福祉援助技術の関連付け</p> <p>5 自己覚知⑤自己の価値観の開示についての個別スーパービジョン</p> <p>6 基本的なコミュニケーション技術の習得：相談援助業務とコミュニケーション技術の関連理解</p> <p>7 コミュニケーション基礎技術の理解①受容・共感・傾聴の体験的理解①</p> <p>8 コミュニケーション基礎技術の理解②受容・共感・傾聴の体験的理解②</p>	<p>9 コミュニケーション基礎技術の理解③受容・共感・傾聴の体験的理解③</p> <p>10 相談援助における言語・非言語コミュニケーションの理解①</p> <p>11 相談援助における言語・非言語コミュニケーションの理解②</p> <p>12 基本的な面接技術の習得：相談援助業務における面接場面の理解</p> <p>13 面接のロールプレイの体験</p> <p>14 面接の逐次記録の作成</p> <p>15 ワークシートを通じての面接のスーパービジョン</p>	
教科書 参考書	必要に応じて指示します。		
評価方法	授業の出席が3分の2に満たない場合は、評価の対象としません。毎回演習のテーマに沿った課題提出があります。個々の課題、授業への参加態度によって総合評価します。		
事前準備学習 履修条件等	〔授業内容・ねらい〕を参照のこと		